

山行報告書

山行管理部

公開山行 比叡山 6月25日 CL上坂 SL三嶋 松山 参加22名
ケーブル八瀬駅(9:19)～西山峠(10:44)～大比叡(12:11)～ ケーブル延暦寺駅
(13:37)～坂本比叡山口駅(15:18)

比叡山は日本仏教母山といわれ、延暦寺があるところである。
一般参加者2名も来ていただき、叡山電鉄八瀬駅下車～ケーブル八瀬駅から緩やかな坂を歩いて、展望台良好地点で美しい景色を眺め、そして根本中堂受付所～大比叡で昼食。そこからはなだらかな下りを、もたて山駅から日吉大社まで下る。
天気は快晴であったが風がなく、多少むしむしと生暑く、ヒルが出て一部オバンギヤルがキャーキャー騒いでいた。またかまれた方がおられた。
自分も足に絡みついたヒルを、ヒルスプレー持ってきてくれた方を取っていただいた。そういや、山に登り始めて10年初めてヒルを見た。
気持ちの悪い行き物であるのは確かである。
ちなみに一度血を吸ったヒルは2～3年生きられるらしい。 (松山 記)

ウイークデイ 生駒山あじさい園 7月5日 CL北 SL木村さ 参加8名
近鉄石切駅9:00→興法寺10:15→あじさい園11:30(昼食)12:00→
額田展望台→公園管理事務所14:00解散→額田駅

午後の降水確率50%以上だったが、午前の降水確率が低かったので決行。
くさかコース登山口に行くと、「倒木のため通行止め」となっていて、辻子谷コースへ変更。道々あじさいの花、お地蔵さんを見ながら歩いた。時々流れる爽やかな風で涼しくなる。

あじさい園到着。ぼんぼりのような大きなあじさい、紅色が鮮やかなあじさい、可憐ながくあじさい、白色から青色に変わったあじさい、幻のあじさい七段花などなど、今年は例年より咲くのが遅く、見頃でした。テントの下で、昼食。

「さあ出発！」とテントを出ると、雨がぱらぱら。急いで、カップを着たり、傘をさしたり、大変。でも、あじさい園の中を歩いていると、カタツムリが、元気に角を出して、私たちを迎えてくれた。

下りは、滑らないようにゆっくりと。雨がしとしと降ってきて、やっぱり天気予報通りだ。でも、「あじさいは、雨の日にかぎるね。」と、とても楽しい山行だった。 (北 記)



土曜山行 木曾駒ヶ岳 7月6日(木)～7月8日(土)

CL 新熊 SL 塚 湯浅 参加 12 名

7/6 (木) 15:30 木曾福島集合 めくもりの宿駒の湯の送迎バスで移動 (泊)
7/7 (金) 宿 6:00 発タクシー→コガラ登山口 6:20⇒七合目避難小屋 (昼食 10:
50~11:30) ⇒玉ノ窪小屋 15:00⇒木曾小屋 15:35⇒木曾駒ヶ岳 16:
00⇒頂上山荘 16:10 (泊)
7/8 (土) 頂上山荘 6:30⇒中岳 6:55⇒天狗荘 7:00⇒宝剣山荘 7:05⇒千畳敷駅
8:00 8:30 発ロープウェイ→しらび平 8:37 着 8:50 発路線バス
菅の台 9:20 着 (解散) 各自こまくさの湯で入浴

不安定なお天気が続くこの時期、参加者全員にコースの変更もあることを伝え、一日目予定の風越山を中止し、二日目はお天気も良く予定通りコガラ登山口をスタートしました。途中渡渉箇所があり先日の大雨で撤退された方もおられ心配しましたが難なく通過できました。途中ゴゼンタチバナ、カラマツソウ、ツマトリソウ、ハクサンイチゲ、クロユリ、ウスユキソウ等標高を上げるにつれ色々なお花を見る事ができました。

ゆっくりペースで小屋に着くのが 16:00 を過ぎそうだったので、山小屋に泊まる常識として電話が繋がらないので木曾小屋から巻道で頂上小屋に連絡しました。

夜半には風と雨の音で眼ざめ、ロープウェイが運休にならないかと心配でしたが、小屋の管理人さんが通常運転していますとの情報で、予定していた濃ヶ池周遊と宝剣岳は中止し早々に下山しました。

小屋を出てから宝剣山荘迄は風が非常に強くトレッキングポールで体を支えないと飛ばされそうになりましたが、全員無事に千畳敷駅に着きました



三日目のお天気は残念でしたが、今

回の目標はロープウェイを使わず下から自分の足で登る事だったので、達成感が味わえたのではと感じています

参加者の皆様お疲れ様でした。

(新熊 記)

サロン パークゴルフ、鶴見緑地散策 7月8日(土)

CL 八木 SL 森下 参加 7 名

パークゴルフ 4 名、鶴見緑地散策 3 名、散策班は公園を一巡して咲くやこの花館に入館見学し、地下鉄鶴見緑地駅で解散しました。

(宇野 記)

夏山有志山行「燕岳～蝶ヶ岳パノラマ銀座縦走」 CL 飯塚 SL 稲田(京) 参加 4 名
実施日 R5 年 7 月 14 日(金)～17 日(月)→ 16 日(日)

7/14(金) 名古屋集合⇒しなの 7 号⇒穂高駅⇒有明荘 14:40 着

7/15(土) 有明荘 5:30⇒燕岳登山口 5:49⇒合戦小屋 8:59⇒燕山荘 10:48⇒大下り
ノ頭 12:47⇒切通岩 14:48⇒大天荘 16:00⇔大天井岳

7/16(日) 大天荘 5:02⇒東大天井岳⇒横通岳⇒常念乗越(小屋)8:24⇔常念岳 9:31⇔
常念小屋 10:47～11:45 (昼食) ⇒一ノ沢登山口 15:35 着

7/17(月) ——

前泊有明荘で、超絶美味しい食事とゆったり温泉を堪能、寝心地の良いお布団で熟睡し 明日からの縦走に備える。

翌 15 日 5 時過ぎに出発、早くも登山口道路は大渋滞、本格的な夏山シーズンを迎える連休初日、残念ながらお天気はイマイチだが人気の北アルプスは人で溢れている。

追越し優先、若いハイカー達に先を譲りながらゆっくり高度を上げて行く。約 3 時間で 合戦小屋に到着、小屋名物のスイカが待っている！今夏最初のスイカはここで食べると 計画を考えた時から決めていた。甘くて水分たっぷり、西瓜は私の大好物♪

でも生憎のお天気で直ぐに体が冷えてくる、休憩を短めに切り上げ出発、燕山荘まであとひと踏ん張り、いよいよ念願のアルプス縦走が待っている！

燕山荘で昼食、小屋でこの後の天気の確認をする。雨こそ上がったものの日本海側にしつこく居すわる梅雨前線の影響で稜線上では風速 10m/s 以上の強い西風の影響を受ける。

体制を低くし、足を踏ん張り、強風と度々の突風に飛ばされないよう気を付けて一步一步進む、最盛期のコマクサ・シャクナゲ等の花々も強風に耐えている。可憐なアルプスの お花たちは、しなやかに強くたくましい。そして山女 4 人もたくましい・・・。

16 時、大天荘到着。風で体力の消耗が大きかったのか、小屋到着後メンバー 1 人の高山病症状が重くなる。SpO₂ 値が 80% 台から一向に回復せず、胃腸障害も現れ始める。頑張れ！だけの根性論の問題では無く、3000m 級厳しい状況下の登山では誰もが高山病になる可能性があり、数字は明快、回復しない SpO₂ 値がどれだけ辛いかわかりやすいに理解できる。そして高山病の特効薬は、「高度を下げる」その一択だ。

皆で話し合い、常念岳から一ノ沢へのコース変更も視野に入れ、天気と体調の回復を願い 21 時就寝。枕元にある窓から台風のような風の音が一晩中鳴り続ける。

翌 16 日(日) 予定よりゆっくり準備し、1 時間遅く 5:02 分小屋を出発する。昨日程では無いがまだ時折強く吹く風の中、東大天荘岳—横通岳—常念乗越へ緩やかに高度を下げて 行く。一旦下った常念乗越(コル)から見上げる常念岳は、どっしりとした存在感ある山容とその高さに圧倒される。ここで蝶ヶ岳縦走は中止、コース変更し下山の最終決断をする。

3 人で常念岳山頂を目指す。連休中日、常念岳も多くのハイカーが訪れ、山頂は記念写真待ちの大渋滞！東の間のパノラマ風景を眺める。その先の蝶ヶ岳へと続く道も見える。正直なところ全く未練が無いと言えば嘘になる。ただ一番悔しいのは、常念小屋で待ってくれている K ちゃんなのでは・・・。

ここまで縦走し、100 名山でもある雄大な常念岳に登れて十分満足！小屋で昼食休憩を 取り一ノ沢コースを一気に下って行く。(このコース予想以上に長くハードだった)

穂高駅へと向かうタクシーの窓から、パノラマ銀座の山々を仰ぎ見る。やはり高い。

ほんの数時間前にそのてっぺんに立っていたのだなあ・・・と、しみじみ感慨深い。初めて燕岳に登り、その先へ進んでみたいと思ってから色々な事があり、7年の歳月を要した。途中、ひとりで縦走を考えたこともあったが、アルプスでは比較的初心者コースと言え甘く見てはいけないと改めて認識する。

高度 3000m級の山々の環境は本当に厳しい、一人では無理だった。

高山病に負けず歩き続けたその頑張りに、豊かな経験値から素早い対応と策を次々と展開される行動力に、専門性のある確かな知識で心強く安心感をもたらしてくれた存在に。

仲間が居なければ登れなかった。みんながいたから無事下山出来た。

蝶ヶ岳ヒュッテの予約を何とか確保できたのは、山行前 2 週間を切ってから。

その経緯も連日の寝不足も今となっては、既に笑い話。まだまだ言葉にできない、書ききれない想いがたくさんある。

でもそれは、一緒に 3 日間を過ごした仲間だけが共有するピカピカの秘密の宝物。

いっぱい話していっぱい笑った。ただただ感謝とありがとうの言葉しかない。

「あ～、楽しかった～～～！！！」

